

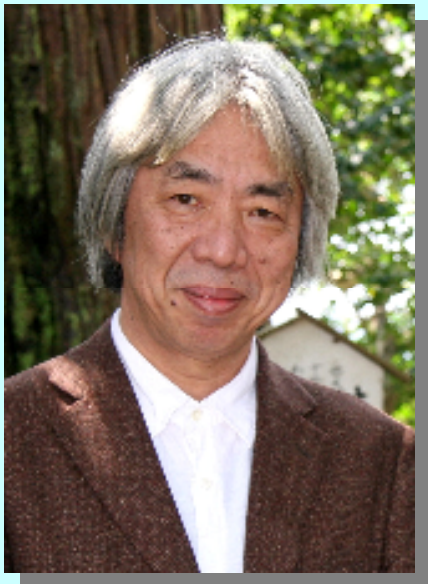
中山間地域の産業振興

— 農産物直売所の意義と農商工連携による地域再生の可能性 —

■ 日時 2008年12月13日(土) 18時~20時

■ 会場 高知共済会館「金鷄の間」
高知県高知市本町5丁目3-20 TEL: 088-823-3211
<http://quickplace.jp/map/view/21482>

入場無料 / 事前申込不要



講師 一橋大学商学部教授

関 満博 氏

1948年 富山県小矢部市生まれ
1971年 成城大学経済学部卒業
1976年 成城大学大学院経済学研究科博士課程修了
東京都商工指導所を経て、
1989年 東京情報大学専任講師、93年助教授
1995年 専修大学商学部助教授
1998年 一橋大学商学部教授
2000年 一橋大学大学院商学研究科教授(現職)
著書に、『地域産業に学べ! モノづくり・人づくりの未来』
(日本評論社、2008年)、『中山間地域の「自立」と農商工
連携/島根県』(松永桂子氏と共編/新評論、2009年2月)
など、多数。

日本の産業振興には、経済産業省が扱う「本流としての産業」、農林水産省が扱う「農林水産業」、国土交通省が取り扱う「観光産業」という3本の流れがある。しかしこの3つの流れはお互い接触もなく、全く別の世界を形成していた。

しかし、大きな変化が農村、中山間地域から起きてきた。変化を促した最大のポイントは「農産物の直売所」、そこから発展した「加工所」「農村レストラン」であり、これらは中山間地域に希望を与える「三点セット」である。

そこでは明らかに「農商工の連携」が行われており、従来型の地場産業の再生、企業誘致、新産業の創出などとは異なる、新たな地域産業の流れが形成されてきつつある。

以上が、今回お招きする関教授の分析である。

今回のセミナーでは、この「地域産業振興」の新たな流れの「意義」を認識し、そのうえで高知県の中山間地域における産業振興策、地域の再生について考える。

【主催・問合せ】 社団法人高知県自治研究センター

〒780-0862 高知市鷹匠町 2-5-47 電話(088)824-0151 FAX(088)820-0062